

環境教育ワーキンググループの活動について（案）

平成 19 年 8 月 21 日
環境教育WG事務局

1 活動方針

- 現在、再生普及小委員会には、再生普及行動計画ワーキンググループ（以下、「行動計画WG」）と環境教育ワーキンググループ（以下、「環境教育WG」）の2つのワーキンググループがある。
- 行動計画WGは、釧路湿原の保全、再生に向けて、広く社会の関心を喚起していくことや、そのための場づくりに関する情報の共有と発信、参加の呼びかけ等を中心に活動している。ここでの取組みは、主として広く市民を対象とする啓発活動が中心であり、そうした活動に主体的に取り組むメンバーが自発的に集まって活動している。
- この行動計画WGでの議論及び、この行動計画に至るまでの過程をとおり、湿原を活用した学校での環境教育等について、繰り返し拡充への期待の声がよせられてきた。しかし、釧路湿原地域での学校における環境教育の現状や必要性、可能性等については、必ずしも十分に状況が把握され、協議会等で共有されているわけではない。
- そこで、環境教育WGは、以下の3つを主な目的として活動していく。

釧路湿原周辺の学校等における環境教育に係る情報の収集
それらに関する、関係者間の情報共有
学校等における環境教育の推進方策の検討

- なお、環境教育の対象や場は広汎で多岐にわたるが、学校教育との連携への関心が高いこと、及び、社会教育に関しては、行動計画WGである程度の状況把握や情報共有が進みつつあること等から、当面、学校における湿原保全・再生をテーマとする環境教育の推進を優先的に検討し、その成果を踏まえて社会教育等への展開についても検討していくこととする。

2 実施体制

- 環境教育WGは、当初、再生普及小委員会構成員（希望者）、教育行政関係機関、関係行政機関で構成する。（別紙WG構成員名簿参照）
- 今後、具体的な推進方策を検討していくにあたっては、必要に応じて学校教員等の参画を要請する。
- 活動状況は、随時、再生普及小委員会に報告する。
- 事務局は、環境省釧路自然環境事務所が務める。

3 調査の実施

- 学校等における湿原をテーマとした環境教育については、その実施状況や意向、必要条件等が明らかではなく、その推進にあたり、まず、現状や課題等の基礎的情報の把握を必要としている。
- そこで、釧路湿原周辺の学校に対して、これらに関するアンケート調査を実施し、あわせて、関係機関での取組み状況についても把握する。調査結果は環境教育WG及び再生普及小委員会等で共有すると共に、各主体の活動に活用する。

(1) 調査対象

- 釧路湿原地域市町村（釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、釧路市）の学校

小学校	56校	（市町村立 55校、国立 1校）
中学校	33校	（市町村立 31校、国立 1校、私立 1校）
高等学校	14校	（道立 10校、市町村立 3校、私立 1校）
大学等	4校	（大学・短大 3校、高専 1校）

- 釧路湿原自然再生協議会団体構成員、オブザーバー、関係行政機関

(2) 調査内容（資料2参照）

- 湿原をテーマとした教育活動の実施状況
- 湿原をテーマとした環境教育の実施意向、必要条件、支援要望
- モデル的な授業実施やプログラム作りへの協力意向、他

(3) 調査実施者

- 環境教育ワーキンググループ

4 スケジュール（予定）

平成 19 年

- 8月21日 第1回環境教育WG開催
 - 活動方針の検討、共有
 - 調査についての検討
- 9月上旬 調査票発送
- 10月 調査票回収、集計
- 11～12月 第2回環境教育WG開催
 - 調査結果の共有と分析
 - 調査結果を受けた次年度活動方針の検討

途中、再生普及小委員会に適宜状況を報告する。